

奄美群島におけるケシキスイ科甲虫の追加記録 (I)

伊藤直哉

〒994-0016 天童市東久野本 (naoya.ito.9.21@gmail.com)

Additional Records of Nitidulidae (Cucujoidea) from Amami Islands, the Central Ryukyus, Southwestern Japan (Part 1)

Naoya Ito

Abstract. The fauna of Nitidulidae (Cucujoidea) from Amami Islands was first treated by Hisamatsu in 1956. Subsequently, several species were sporadically recorded. Recently, the author investigated nitidulid fauna of Amami-Ōshima Island and reported that at least thirty-eight nitidulid species were distributed (Ito & Hisamatsu, 2019). However, little survey on its surrounding islands has been conducted so far. The author examined the specimens of the beetles preserved in Ehime University Museum and Tokyo University of Agriculture. In addition to these materials, the specimens provided by private collectors were examined. Consequently, a total of 28 species was confirmed from the islands. In the first part of this paper, eighteen species of four subfamilies Epuraeinae, Carpophilinae, Prometopinae and Meligethinae were reported and the following species were newly given from four islands: [Amami-Ōshima Is.] 1) *Epuraea* (*Micruria*) *dentipes* Hisamatsu; 2) *Carpophilus* (*Carpophilus*) *chalybeus* Murray; 3) *C. (Ecnomorphus)* *acutangulus* Reitter [Yorojima Is.] 1) *Taenioncus tenuis* (Murray) [Tokunoshima Is.] 1) *E. (Haptoncurina)* *paulula* Reitter; 2) *E. (Haptoncus)* *luteola* Erichson; 3) *E. (H.)* *ocularis* Fairmaire; 4) *Trimenus parallelopipedus* Motschulsky; 5) *T. tenuis* (Murray); 6) *C. (Myothorax)* *mutilatus* Erichson; 7) *C. (M.)* *nepos* Murray; 8) *Urophorus* (*Anophorus*) *humeralis* (Fabricius); 9) *Prometopia quadrimaculata* Motschulsky; 10) *Parametopia x-rubrum* Reitter; 11) *Meligethes pectoralis* Rebmman [Okinoerabu-jima Is.] 1) *U. (A.)* *humeralis* (Fabricius). Of these species, *E. (M.)* *dentipes* Hisamatsu, *C. (C.)* *chalybeus* Murray, *C. (E.)* *acutangulus* Reitter, these were discovered from Amami Islands for the first time.

緒言

奄美群島は8つの有人島とその周辺の無人島および岩礁群で構成され、奄美大島から与論島まで南北に約200 kmに亘って連なっている。本群島は最大面積を誇る奄美大島に代表され、同島は琉球列島の中でも最も豊かな昆虫相を擁する島の一つである(山根, 2010)。地理的にはこれら奄美群島に属する島々は中琉球に含まれ、遺存固有を含む独自の動物相を形成している。

奄美群島のケシキスイ科甲虫(以下、ケシキスイ)はHisamatsu (1956)により初めて取り上げられ、奄美大島を主として本群島から13種が記録された。その後、奄美大島のケシキスイに関しては散発的な記録の追加があり、近年では筆者によって記録の整理、追加および集約がなされ合計38種が報告された(伊藤・久松, 2019)。これにより同島のケシキスイ相は、群島内で群を抜いて解明度の向上を図ることができたが、その一方、周辺離島については1956年以降各島で数種の記録の追加があったものの、以下の通り未だ記録は乏しいままである。加計呂麻島:1種、喜界島:2種、請島:2種、徳之島:5種、沖永良部島:3種、与論島:2種(Hisamatsu, 1956, 1959a; Chûjō, 1970; 古川ほか, 1990; 東, 2002; 中峯, 2006; 今坂・

祝, 2007; Audisio *et al.*, 2014; Hisamatsu, 2016; 久松, 2016)。これら周辺離島の中には、奄美大島に次ぐ面積を有する徳之島や奄美大島に隣接し類似した自然環境を有する加計呂麻島などの島々があり(水田, 2016)、これらには奄美大島と相関するケシキスイ相や、多くの未記録種を有していることが推察される。また、周辺島から記録される種の中には、徳之島のヒメヒラタケシキスイ *Epuraea* (*Epuraea*) *domina* Reitter, 1873 やムナクボヒラタケシキスイ *E. (E.)* *foveicollis* Reitter, 1873 のように分布の南限となる貴重な記録も存在することから(伊藤・久松, 2019)、本群島各島における分布記録も琉球列島のケシキスイ相を理解するために有用な情報になると考えられる。

本稿では伊藤・久松(2019)以降に調査の結果、本群島各島から多くの種を確認することができたためここに報告する。なお、本論文は前編、後編の2部構成となっており、前編ではヒラタケシキスイ亜科 Epuraeinae、デオケシキスイ亜科 Carpophilinae、キバケシキスイ亜科 Prometopinae およびチビケシキスイ亜科 Meligethinae について、後編ではケシキスイ亜科 Nitidulinae、ホソセスジデオキスイ亜科 Cillacinae およびオニケシキスイ亜科 Cryptarchinae について報告する。また、琉球列

島の範囲については諸説あるが、本論文では安間(2001)に従い、九州-台湾間の弧状列島全域および大東諸島含め、琉球列島とする。

材料と方法

筆者は愛媛大学ミュージアムおよび東京農業大学に保管されているケシキスイ標本を検視した。また、茨城県の大桃定洋博士、山形県の櫻井俊一氏ならびに東京農業大学大学院の瑠寺裕氏より提供された標本についても確認した。

各種ケシキスイの和名および学名については、久松ら(2019)のケシキスイ類(ヒゲボソケシキスイ科・ケシキスイ科・タマキスイ科)情報サイト「くらびこるにあ CLAVICORNIA」を基本とした。なお、今回検視した各標本の収蔵機関および提供元については下記の通り略記し、3)~5)のケシキスイ標本については筆者が管理している。

- 1) 愛媛大学ミュージアム：EUM (Ehime University Museum)
- 2) 東京農業大学：TUA (Tokyo University of Agriculture)
- 3) 大桃定洋甲虫コレクション：SOCC (Sadahiro Ohmomo Coleoptera Collection)
- 4) 櫻井俊一甲虫コレクション：SSCC (Shunichi Sakurai Coleoptera Collection)
- 5) 瑠寺裕甲虫コレクション：YTCC (Yutaka Tamera Coleoptera Collection)

結果

各研究機関での標本調査および提供標本の検視の結果、本稿で扱う4亜科から合計18種が確認された。これに伴い、奄美大島からは3種、与路島からは1種、徳之島からは11種、沖永良部島からは1種の初記録がそれぞれ確認された。ここでは初記録種だけでなく、本研究で確認された種をリストアップする。なお、本報告内では、各島における初記録については島名の末尾に、奄美群島初記録については種名の末尾に「*」を付した。

ヒラタケシキスイ亜科 *Epuracinae* Kirejtshuk, 1986

ヒラタケシキスイ族 *Epuracini* Kirejtshuk, 1986

ヒラタケシキスイ属 *Epuraea* Erichson, 1843

トゲヅメヒラタケシキスイ亜属 *Micruria* Reitter, 1875

1. トゲアシヒラタケシキスイ *Epuraea* (*Micruria*) *dentipes* Hisamatsu, 1961* (図1)

【標本データ】[奄美大島*] 1 ex., Ikari, 4. VII. 1961, T. Shibata leg., EUM; 3 exs., Hatsuno, 13. IV. 1971, M. Sakai leg., EUM; 1 ex., ditto, 14. IV. 1971, M.

Sakai leg., EUM; 1 ex., ditto, 2. V. 1977, M. Sakai leg., EUM; 1 ex., ditto, 2. V. 1977, A. Oda leg., EUM; 1 ex., Kinsakubaru, 26. III. 1999, N. Ohbayashi leg., EUM; 1 ex., Uken-son, 20. V. 1999, K. Takahashi leg., SOCC.

【分布】本州、四国、九州、対馬(久松, 1985); 琉球(屋久島)(久松, 1985); 台湾(久松, 1985; Jelínek & Audisio, 2007). 奄美大島および奄美群島初記録。

【備考】久松(1985)では、分布を「琉球」としているが、詳細な島名が記録されているのはこれまで屋久島のみであった。

2. ニセキバナガヒラタケシキスイ *Epuraea* (*Micruria*) *punctata* Kirejtshuk, 1992 (図2)

【標本データ】[徳之島] 4 exs., Inokawa-dake, 27. III, 1996, Y. Notsu leg., EUM; 1 ex., Tete-rindô, 16. III. 2009, T. Ichianagi leg., EUM; 3 exs., Mt. Amagi (alt. 500~530 m), Tokunoshima Town, 16. III. 2009, T. Kurihara leg., EUM; 1 ex., ditto, 18. III. 2009, T. Kurihara leg., EUM.

【分布】本州、四国、九州(久松, 2016); 琉球(中之島, 奄美大島, 徳之島)(久松, 2016); 中国南東部(四川省, 福建省)(Kirejtshuk, 1992).

【備考】久松(2016)により徳之島からの分布について言及されているが、標本データは示されていない。

デメヒラタケシキスイ亜属 *Haptoncurina* Jelínek, 1977

3. マメヒラタケシキスイ *Epuraea* (*Haptoncurina*) *paulula* Reitter, 1873

【標本データ】[徳之島*] 4 exs., San, 12. VI. 1967, S. Hisamatsu leg., EUM; 1 ex., Kametoku, 6. IV. 1968, M. Tomokuni leg., EUM.

【分布】北海道、本州、四国、九州、佐渡島、伊豆諸島、五島列島(久松, 1985); 琉球(種子島, 屋久島, 中之島, 宝島, 奄美大島, 沖縄島)(Nakane, 1959; 中根, 1959; Chûjô, 1970; 東, 2002; 伊藤ほか, 2015; 伊藤・久松, 2019); 中国(福建省, 黒竜江省, 河南省), 韓国, 北朝鮮, 台湾, ブータン, 東洋区(久松, 2007; Jelínek & Audisio, 2007). 徳之島初記録。

【備考】本種は訪花性を示すことが知られており(久松, 1985; Kirejtshuk, 1998), 国内ではボンカンやブンタンなどカンキツ類の花に訪花することで果実に傷害を発生させる害虫として認識されている(長浜・河野, 1972; 川村, 1984). 幼虫はバラ科のコゴメウツギ *Neillia incisa* (Thunb.) S. H. Oh およびノイバラ *Rosa multiflora* Thunb. の腐敗花で育つとされる(Hayashi, 1978).

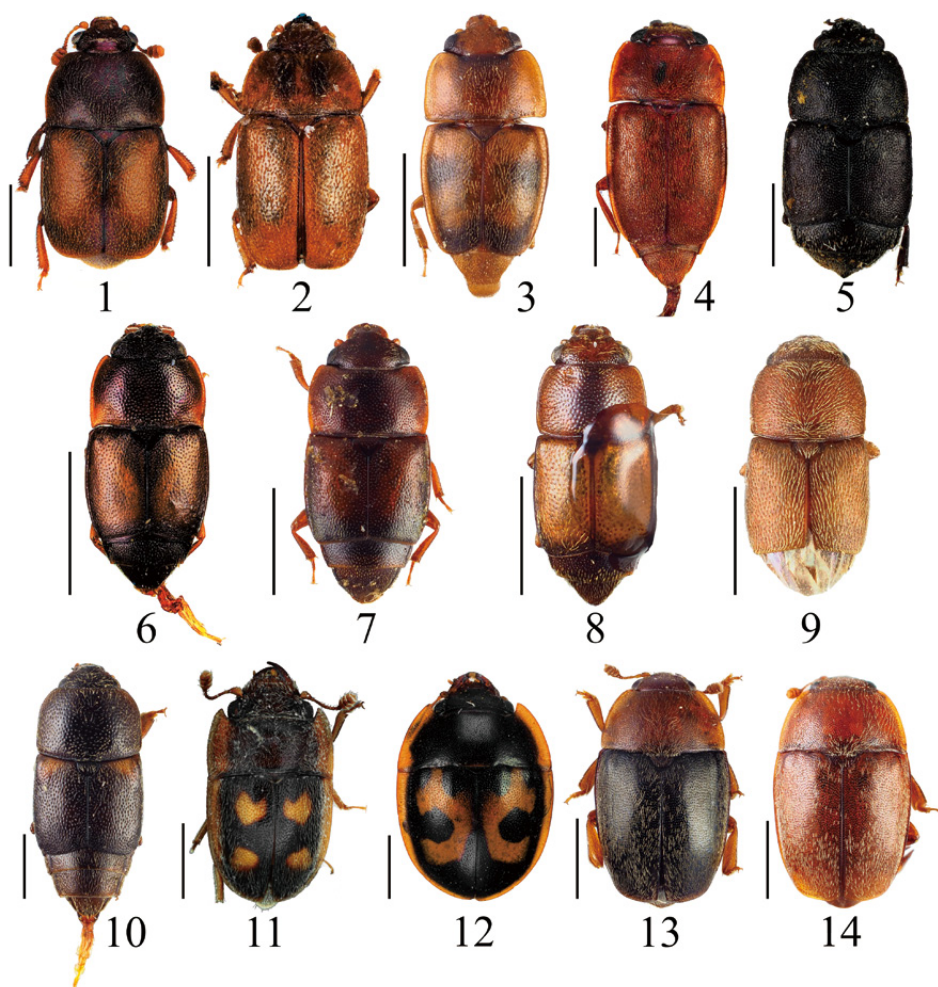


図 1-14. 奄美群島産ケシキスイ（ヒラタケシキスイ亜科，デオケシキスイ亜科，キバケシキスイ亜科，チビケシキスイ亜科）。

1, トゲアシヒラタケシキスイ *E. (Micruria) dentipes* Hisamatsu; 2, ニセキバナガヒラタケシキスイ *E. (M.) punctata* Kirejtshuk; 3, モンチビヒラタケシキスイ *E. (Haptoncus) ocularis* Fairmaire; 4, オオメアカヒラタケシキスイ *Trimenus parallelipedus* Motschulsky; 5, クロハナケシキスイ *Carpophilus (Carpophilus) chalybeus* Murray; 6, ムネカドデオキシイ *C. (Ecnomorphus) acutangulus* Reitter; 7, ヘリグロデオキシイ *C. (E.) cingulatus* Reitter; 8, キバナガデオキシイ *C. (Myothorax) mutilatus* Erichson; 9, コメノケシキスイ *C. (M.) truncatus* Murray; 10, カタベニデオキシイ *Urophorus (Anophorus) humeralis* (Fabricius); 11, ヨツモンキバケシキスイ *Prometopia quadrimaculata* Motschulsky; 12, マルヒラタケシキスイ *Parametopia x-rubrum* Reitter; 13, ムネアカアオチビケシキスイ *Meligethes pectoralis* Rebmman; 14, シラキチビケシキスイ *M. shirakii* Hisamatsu. スケール：1.0 mm.

チビヒラタケシキスイ亜属 *Haptoncus* Murray, 1864
4. キイロチビヒラタケシキスイ *Epuraea (Haptoncus) luteola* Erichson, 1843

【標本データ】[徳之島*] 1 ex., 29. III. 1966, T. Ito leg., EUM.

【分布】五島列島（久松，1985）；琉球（種子島，屋久島，中之島，宝島，奄美大島，沖永良部島，沖縄島，久米島，西表島）（Hisamatsu, 1956; Nakane,

1959; 中根，1959; Chûjô, 1970, 1971; 久松，1985; 東，2002; 佐藤，2006; 伊藤ほか，2015; 伊藤・久松，2019）；汎世界（Jelínek & Audisio, 2007）。徳之島初記録。

【備考】国内では主に琉球から知られ，北～南琉球まで広く記録される普通種である。本種は発酵果実に好んで集まり，果実害虫としても有名である（Hinton, 1945; 林，1982; 久松，1985 な

ど)。海外では成虫が核果類に対し、灰星病の病原菌 *Monilinia fructicola* (Winter) Honey を媒介することが知られる (Tate & Ogawa, 1975)。幼虫は腐敗果実および腐敗花で育つとされる (Hayashi, 1978; Kirejtshuk, 1998)。

5. モンチビヒラタケシキスイ *Epuraea* (*Haptoncus*) *ocularis* Fairmaire, 1849 (図 3)

【標本データ】[奄美大島] 1 ex., Tatsugô, 4. V. 2010, K. Takahashi leg., SOCC; 1 ex., Uken-son, 6. VI. 2011, K. Takahashi leg., SOCC [徳之島*] 9 exs., Shoda, Tokunoshima-chô, 25. VI. 2017, Y. Tamadera leg., YTCC; 1 ex., Tete-rindô, Amagi-chô, 28. VI. 2017, Y. Tamadera leg. (light trap), YTCC.

【分布】本州, 四国, 九州, 佐渡, 小笠原, 隠岐, 対馬, 五島列島, 甌島 (久松, 1985); 琉球 (種子島, 屋久島, 口之島, 中之島, 小宝島, 宝島, 奄美大島, 喜界島, 沖永良部島, 沖縄島, 久米島, 西表島) (Hisamatsu, 1956; Nakane, 1959; Chûjô, 1970, 1971; 東, 2002; 佐藤, 2006; 山内・久松, 2013; 伊藤ほか, 2015; 伊藤・久松, 2019); 汎世界 (Jelinek & Audisio, 2007)。徳之島初記録。

【備考】琉球列島では種子島～西表島までの多くの島から分布記録が散見される。本種は果実に集まり, 国内各地で容易に得ることができる。琉球でもごく普通。海外ではサトウキビに対し, 黒腐病 (Pineapple disease) の病原菌 *Ceratocystis paradoxa* (Dade) C. Moreau を媒介することが知られている (Chang & Jensen, 1974)。幼虫は腐敗果実および菌類子実体からの採集記録がある (Hayashi, 1978)。

アカヒラタケシキスイ属 *Trimenus* Murray, 1863

6. オオメアカヒラタケシキスイ *Trimenus parallelopipedus* Motschulsky, 1864 (図 4)

【標本データ】[奄美大島] 1 ex., Hatsuno, 14. IV. 1963, K. Takahashi leg., TUA; 3 exs., Higashi-nakama, 20. IV. 1963, K. Takahashi leg., TUA; 2 exs., Uken-son, 23–26. V. 2004, K. Takahashi leg., SOCC; 2 exs., Shinokawa, Setouchi-chô, 8. VI. 2011, K. Takahashi leg., SOCC. [徳之島*] 1 ex., Todoroki, Tokunoshima-chô, 24. VI. 2017, Y. Tamadera leg. (light trap), YTCC.

【分布】本州, 四国, 九州 (Hisamatsu, 1955; 久松, 1985); 琉球 (種子島, 中之島, 奄美大島) (Nakane, 1959; Chûjô, 1970; 久松, 1985; 東, 2002; 伊藤・久松, 2019); 中国南東部, 台湾, インド, ミャンマー, ベトナム, スリランカ, マレーシア, フィリピン, パプアニューギニア, オーストラリア (Kirejtshuk, 1998; 久松, 2007)。徳之島初記録。

【備考】本種はインド, 中国南東部などの他, オーストラリア区, 東洋区の各地にも分布し, 本州を北限とする南方系種である。本種はライトトラップや果実トラップ, 倒木樹皮下等から得ることができる。

ツツデオキシス属 *Taenioncini* Kirejtshuk, 1998

ツツデオキシス属 *Taenioncus* Kirejtshuk, 1984

7. ツツデオキシス *Taenioncus tenuis* (Murray, 1864)

【標本データ】[与路島*] 1 ex., Mt. Okachi-yama, 1. V. 2009, S. Matsuo leg., EUM [徳之島*] 1 ex., San, 12. VI. 1967, S. Hisamatsu leg., EUM.

【分布】本州, 四国, 九州 (久松, 1985); 琉球 (中之島, 奄美大島, 沖縄島) (Nakane, 1959; Chûjô, 1970; 伊藤・久松, 2019); 中国南東部, 台湾, 韓国, インド, ベトナム, インドネシア, パプアニューギニア, ポリネシア, スリランカ (Kirejtshuk, 1998)。与路島および徳之島初記録。

【備考】本種も前種同様, 東洋区からの記録が多く本州からの記録は北限と考えられる。本種は訪花性を示すことが知られ (久松, 1985; Kirejtshuk, 1998), 琉球列島では比較的多い種である。

デオケシキスイ亜科 *Carpophilinae* Erichson, 1943

デオケシキスイ属 *Carpophilus* Stephens, 1830

デオケシキスイ亜属 *Carpophilus* Stephens, 1830

8. クロハナケシキスイ *Carpophilus* (*Carpophilus*) *chalybeus* Murray, 1864* (図 5)

【標本データ】[奄美大島*] 1 ex., Yuwan, 3. IV. 1968, M. Tomokuni leg., EUM.

【分布】北海道, 本州, 四国, 九州, 千島, 利尻, 佐渡, 伊豆諸島, 対馬 (久松, 1985); 琉球 (種子島, 屋久島, 沖縄島, 久米島) (久松, 1985; 東, 2002; 佐藤, 2006); 極東ロシア, 朝鮮半島, 中国 (北東部, 北京市), 台湾 (Jelinek & Audisio, 2007)。奄美大島および奄美群島初記録。

【備考】本土では普通種であるが, 琉球では比較的少ない。本種が属する *Carpophilus* 属は, 貯穀, 樹液, 発酵果実に集まる種が多く, 害虫として認識される種も多いが, 本種は訪花性を示すことが特徴的である。

ムツボンデオケシキスイ亜属 *Ecnomorphus*

Motschulsky, 1858

9. ムネカドデオキシス *Carpophilus* (*Ecnomorphus*) *acutangulus* Reitter, 1884* (図 6)

【標本データ】[奄美大島*] 1 ex., Shinmura, 12. IV. 1962, S. Tachikawa leg., TUA; 2 exs., Hatsuno, 14.

IV. 1963, K. Takahashi leg., TUA; 1 ex., Hatsuno, 7. IV. 1965, K. Ueda leg., EUM; 1 ex., ditto, 14. VI. 1962, M. Sato leg., EUM.

【分布】本州，四国，九州，対馬，佐渡，隠岐（久松，1985）；琉球（中之島）（Nakane, 1959）；極東ロシア，朝鮮半島，台湾（Kirejtshuk, 2005; Jelínek & Audisio, 2007）．奄美大島および奄美群島初記録．

【備考】久松（1985）は琉球から本種を記録しているが，島名については言及しておらず，詳細な記録はこれまで中之島のみであった．

10. ヘリグロデオキシイ *Carpophilus (Ecnomorphus) cingulatus* Reitter, 1884 (図 7)

【標本データ】〔奄美大島〕12 exs., Hatsuno, 14. IV. 1963, K. Takahashi leg., TUA; 1 ex., Yanma, 17. IV. 1963, K. Takahashi leg., TUA; 3 exs., Higashi-nakama, 20. IV. 1963, K. Takahashi leg., TUA; 1 ex., Mt. Yuwandake, 17. VI. 1963, K. Mizusawa leg., TUA.

【分布】本州，四国，九州，伊豆諸島，対馬（久松，2007）；琉球（屋久島，中之島，奄美大島）（Chûjô, 1970；久松，1985；伊藤・久松，2019）；シベリア東部（久松，2007）．

【備考】本種は前種のシノニムとされているが（Kirejtshuk, 2005; Jelínek & Audisio, 2007），ここでは伊藤・久松（2019）に従い独立種として扱う．本種の奄美大島からの記録は南限となる．

キバナガデオキシイ亜属 *Myothorax* Murray, 1868
11. キバナガデオキシイ *Carpophilus (Myothorax) mutilatus* Erichson, 1843 (図 8)

【標本データ】〔徳之島*〕1 ex., 26–29. VI. 2011, S. Sakurai leg., SSCC.

【分布】本州（平野・岩田，2002；石川，2016；伊藤ほか，2019）；琉球（種子島，中之島，小宝島，宝島，奄美大島，請島，沖縄島，西表島，南大東島）（Chûjô, 1970, 1971；東，1989, 2002；中峯，2006；伊藤ほか，2015；伊藤・久松，2019）；汎世界（Jelínek & Audisio, 2007）．徳之島初記録．

【備考】本種は果実や貯穀によく集まり世界各地で害虫として認識されている（Dobson, 1954; Connell, 1977；久松，1985 など）．海外ではキイロチビヒラタケシキスイとともに，成虫が核果類に対し灰星病の病原菌を媒介することが知られる（Tate & Ogawa, 1975）．

12. ウスチャデオキシイ *Carpophilus (Myothorax) nepos* Murray, 1864

【標本データ】〔奄美大島〕3 exs., Tatsugô, 4. V.

2010, K. Takahashi leg. SOCC. [徳之島*] 1 ex., San, 12. VI. 1967, S. Hisamatsu leg., EUM; 1 ex., Nishiagina, 25. VII. 1963, M. Sato leg., EUM.

【分布】本州，四国，九州（久松，1985）；琉球（口之島，中之島，宝島，奄美大島，沖縄島，久米島，南大東島）（Chûjô, 1970；今坂・海老原，1996；東，1989, 2002；佐藤，2006；伊藤ほか，2015）；汎世界（Jelínek & Audisio, 2007）．徳之島初記録．

【備考】本種は貯穀害虫としても知られ（Connell, 1977；日本応用動物昆虫学会，2006; Basak & Pal, 2007 など），アメリカではトウモロコシの穂にコウジカビの一種 *Aspergillus flavus* Link を媒介するベクターとしても知られる（Lussenhop & Wicklow, 1990）．

13. コメノケシキスイ *Carpophilus (Myothorax) truncatus* Murray, 1864 (図 9)

【標本データ】〔奄美大島〕1 ex., Nishi-nakama, 12. IV. 1962, A. Kato leg., TUA.

【分布】本州，四国，九州（久松，1985）；琉球（奄美大島，西表島）（Hisamatsu, 1956; Chûjô, 1970）；汎世界（久松，1985; Jelínek & Audisio, 2007）

【備考】Hisamatsu (1956) により奄美大島から記録されている．貯穀の害虫として知られる（久松，1985）．

ベニデオケシキスイ属 *Urophorus* Murray, 1864
カタベニデオケシキスイ亜属 *Anophorus* Kirejtshuk, 1990
14. カタベニデオキシイ *Urophorus (Anophorus) humeralis* (Fabricius, 1798) (図 10)

【標本データ】〔徳之島*〕1 ex., 17. VI. 2005, K. Itoh leg., SSCC; 1 ex., Shoda, Tokunoshima-chô, 25. VI. 2017, Y. Tamadera leg., YTCC. [沖永良部島*] 1 ex., China-chô, 2. VII. 1964, K. Hatta leg., EUM; 11 exs., Ôyama, China-chô, 14. VIII. 2001, S. Sakurai leg., SSCC; 2 exs., Ôyama-camp, Kuronuki, China-chô, 7. VII. 2019, Y. Tamadera leg., YTCC.

【分布】北海道，本州，四国，九州，伊豆諸島，小笠原諸島（久松，1985；柏崎，2015）；琉球（黒島（三島村），種子島，屋久島，口之島，中之島，小宝島，宝島，奄美大島，請島，沖縄島，久米島，宮古島，石垣島，西表島，南大東島）（Chûjô, 1970, 1971；久松，1985；東，1989, 2002；中峯，2006；佐藤，2006；伊藤ほか，2015；伊藤・久松，2019；伊藤ほか，2019）；汎世界（Jelínek & Audisio, 2007）．徳之島および沖永良部島初記録．

【備考】琉球列島産ケシキスイの中では多くの島からの記録があり，ごく普通種である．国内ではカタアカデオキシイやアナナスケシキスイと呼ば

れることもある。海外でも Pineapple beetle としばしば呼ばれ、国内外でパイナップルをはじめ、果実、穀類、野菜類の重要害虫として知られる (Dobson, 1954; Connell, 1981; 日本応用動物昆虫学会, 2006 など)。海外ではモンチビヒラタケシキスイとともに、サトウキビに対し黒腐病の病原菌を媒介することが知られている (Chang & Jensen, 1974)。

キバケシキスイ亜科 *Prometopinae* Böving & Craighead, 1931

キバケシキスイ属 *Prometopia* Erichson, 1843

15. ヨツモンキバケシキスイ *Prometopia quadrimaculata* Motschulsky, 1863 (図 11)

【標本データ】[加計呂麻島] 3 exs., Shodon, 16. VI. 1958, R. Kawasaki leg., EUM [徳之島*] 1 ex., Tete-rindô, 19. III. 2009, T. Ichiyangi leg., EUM.

【分布】琉球(中之島, 加計呂麻島, 沖縄島, 久米島, 石垣島) (Hisamatsu, 1959; 中根, 1963; 東, 2002; 佐藤, 2006; 山本, 2010; 三宅・野林, 2013; 伊藤ほか, 2015); 台湾, マレー諸島, ブータン, ミャンマー, ネパール, インド, スリランカ, ミクロネシア (久松, 1985; 久松, 2007; Jelinek & Audisio, 2007). 徳之島初記録.

【備考】本種は東南アジアを中心に分布する東洋区系種であり (久松, 2007; Jelinek & Audisio, 2007), 中之島の記録は本種の北限であると考えられる。本種の詳しい生態は不明であるが, 倒木の樹皮下から採集することができる。

マルヒラタケシキスイ属 *Parametopia* Reitter, 1884

16. マルヒラタケシキスイ *Parametopia x-rubrum* Reitter, 1884 (図 12)

【標本データ】[奄美大島] 7 exs., Higashi-nakama, 20. IV. 1963, K. Takahashi leg., TUA; 1 ex., Hatsuno, 14. IV. 1963, K. Takahashi leg., TUA; 2 exs., Tsunaku, 24. IV. 1963, K. Takahashi leg., TUA; 2 exs., Uken-son, 23–26. V. 2004, K. Takahashi leg., SOCC; 1 ex., Chûô-rindô, Uken-son, 29. VI. 2007, K. Takahashi leg., SOCC [徳之島*] 2 exs., Matsubara, Amagi-chô, 24. VI. 2017, Y. Tamadera leg., YTCC; 1 ex., Tete-rindô, Amagi-chô, 28. VI. 2017, Y. Tamadera leg. (light trap), YTCC.

【分布】本州, 四国, 九州, 伊豆諸島, 対馬 (久松, 1985); 琉球 (屋久島, 中之島, 奄美大島, 沖縄島, 石垣島, 西表島) (中根, 1959; Nakane, 1959; 今坂・海老原, 1996; 東, 2002; 伊藤ほか, 2015; 伊藤・久松, 2019); 韓国, 台湾 (Jelinek & Audisio, 2007; Lee *et al.*, 2018). 徳之島初記録.

【備考】本種の詳しい生態は不明であるが, 筆者

はこれまで立ち枯れおよび倒木上で本種を採集している。

チビケシキスイ亜科 *Meligethinae* Thomson, 1859

チビケシキスイ属 *Meligethes* Stephens, 1830

17. ムネアカアオチビケシキスイ *Meligethes pectoralis* Rebmman, 1956 (図 13)

【標本データ】[奄美大島] 1 ex., Niimura, 11. IV. 1962, A. Kato leg., TUA; 1 ex., Koniya, 9. IV. 1963, K. Takahashi leg., TUA; 2 exs., Tatsugô, 9. VI. 2004, K. Takahashi leg., SOCC. [徳之島*] 1 ex., Tokunoshima Is., 28. III. 1966, T. Ito leg., EUM; 1 ex., ditto, 28. III. 1966, H. Nomura leg., EUM.

【分布】伊豆諸島 (大島, 三宅島) (Hisamatsu, 2009); 琉球 (奄美大島) (Hisamatsu, 2009); 中国 (福建省, 湖北省, 浙江省), 台湾 (Audisio *et al.*, 2014). 徳之島初記録.

【備考】筆者は琉球各島のケシキスイを調査しているが, 未だ奄美群島産以外の標本は確認できておらず, 本種は不連続な分布を示している。

18. シラキチビケシキスイ *Meligethes shirakii* Hisamatsu, 1956 (図 14)

【標本データ】[奄美大島] 4 exs., Naze, 5. IV. 1962, M. Saikawa leg., TUA; 5 exs., Akagina, 5. IV. 1962, M. Saikawa leg., TUA; 1 ex., Kasari, 6. IV. 1962, S. Tachikawa leg., TUA; 1 ex., Shinmura, 11. IV. 1962, M. Saikawa leg., TUA; 1 ex., Nishi-nakama, 12. IV. 1962, M. Saikawa leg., TUA; 1 ex., Tatsugô, 9. VI. 2004, K. Takahashi leg., SOCC.

【分布】琉球 (奄美大島, 徳之島) (Audisio *et al.*, 2014); 中国 (貴州省, 浙江省), 台湾 (Audisio *et al.*, 2014).

【備考】本種も前種と同様, 琉球では奄美群島 (奄美大島, 徳之島) のみ知られ, 不連続な分布を示している。

(次号掲載予定の (II) に続く)

(2019年11月11日受領, 2020年1月17日受理)